

キャンプファイヤー (4月～10月限定)



1 ねらい

暗闇の中でおごそかに燃える火を囲んでのキャンプファイヤーは、友情の輪であり、参加者の心をゆさぶり、高め、共同生活をもっとも意義深くするつどいである。

- (1) 自己をみつめ仲間の一員としての認識を深め、よりよい仲間づくりをしようとする気持ちを養う。
- (2) 創意工夫をこらしたスタuntsを作り、発表したり見たりする楽しいだんらんの中に協調性と温かい友情を養う。
- (3) 深い印象と強い感激を与え、よりよい生活への意欲を高める。

2 所要時間 1～2時間程度

3 活動場所および人数 運動場(100人以上)、野外集会場(100人程度)、運動広場(60人程度)

4 参加者の服装

火の粉によるやけどを防止するために長そで、長ズボン、靴下、帽子またはバンダナ等着用が望ましい。

5 準備物

利用団体にて準備するもの:軍手(綿製品に限る)、マッチ、たきつけ(新聞紙等)、懐中電灯
当所に常備しているもの:トーチ、灯油、けた木、薪

6 役割分担

役 割 名	人 数	役 割 の 内 容
営 火 長	1	つどいの責任者 はじめと終わりのことばを述べる
司 会 者	1	企画と進行 リハーサルの実施 だしものの指導と調整
火 の 守	4	薪の組み立て 後始末
火 の 使 い	1	トーチを持って入(退)場する
誓 詞 者	数名	班の代表 誓いの言葉を述べる

7 活動の流れ(展開例)

第1部 かがり火を迎える

プログラム	内 容 お よ び 留 意 事 項
1 集 合	・予備集合場に集合 ・うたを歌うなどして雰囲気をつくる (「見上げてごらん」、「若者たち」、「ふるさと」など)
2 全 員 入 場	・司会を先頭に入場し、サークルをつくる ・営火長はあらかじめ営火場で待つ ・火の使いも配置につく
3 司会者のことば	・キャンプファイヤーの開会を宣言する ・厳粛な雰囲気を保つように気をつける
4 う た	(「遠き山に日は落ちて」、「夕やけこやけ」、「四季の歌」など)
5 ト ー チ 入 場	・火の使いは歌の途中で点火し、入場後に営火長の前へ出る ・誓詞者が前に出て火床を囲み、火の使いより分火してもらう

6 誓いのことば	・ゆっくり力強く述べる ・誓詞者はトーチを掲げて述べる
7 点火	・営火長の点火の合図で点火する
8 営火長のことば	・火に関すること、研修の目的や成果、規律、友愛、協力、奉仕、文化、平和、生命、努力などについて数分間話す
9 うた	(「燃えろよ燃えろ」、「若者たち」、など)

第2部 親睦の火を囲んで(ボン・ファイア)

プログラム	内容および留意事項
1 歌、ゲーム、フォークダンス等	・司会のリードで進行する ・司会者は楽しい雰囲気をつくるよう配慮する
2 スタンツ	・時間は5分程度で、班の全員が協力する。 ・ユーモアに富み、健康的で自分の生活などから考え創作したものが望ましい。 ・歌は、単に斉唱するだけでなく、輪唱や合唱にして変化をつける。 ・自分たちだけで楽しむのではなく、みんなに見てもらい、いっしょに楽しむものである。また終われば拍手でたたえるようにする。

第3部 かがり火を送る

プログラム	内容および留意事項
1 うた	・歌うことで気持ちを落ち着けて、静かな雰囲気をつくる(「星影さやかに」、「ふるさと」、「赤とんぼ」など)
2 営火長のことば	・火の守は火床に土をかけて火が見えないようにする
3 かがり火退場	・参加者の顔を照らしつつ、円内を1周し、円外へ出たらすばやく退場し見えないところで消火する ・全員注目して見送る。
4 うた	(「今日の日はさようなら」など)
5 司会のことば	・キャンプファイヤーの終了を宣言する
6 退場	・司会を先頭に退場し、予備集合場で指示を与え解散する ・火の守を中心に消火し、薪、丸太、トーチ、スコップなどの用具の後始末をする ・翌朝、燃え残った木や炭を取り除き、営火場の周囲を清掃する

8 留意事項

- (1) 実施時間が延びないようにし、全体が2時間程度で終わるようにする。
- (2) トーチは、1団体10本まで貸し出すことができる。
- (3) キャンプファイヤーの大きさ(けた木や薪の本数)は、3種類あるので確認しておく。
- (4) 当日夜のうちに消火(できるだけ燃え残りを出さない。)し、トーチを元に戻す。さらに翌朝、燃え残った木を炭捨て場へ捨て、砂をならす。